

ダルニーフォーラム

第四十一号

2022年3月

www.edfthai.org/jp

元奨学生のご紹介

奨学金は夢を実現するための扉を開いてくれました。



名前:ピャポーン・トーンカムさん

本籍:カラシン県

学歴:カーラシン大学、教育イノベーション学部英語課
に通う大学2年生

**2014年から2016年まで3年間、ダルニー奨学金の支
援を受けていました。**

幼い頃、私には両親と暮らした記憶がなく、いつも私のそばに
いてくれたのは祖父母でした。学校に行く準備を手伝ってくれ



現在のピャポーンさん

学校での昼食代など、勉強に必要な費用に使いました。私にと
ってダルニー奨学金は貴重な唯一の経済的な援助で、この奨
学金があったからこそ、中学校を卒業することができました。
高校に通うための費用は、一時期近所の人に借りたこともあ
りましたが、祖父母と母が一生懸命働いて、私の卒業まで支え
てくれました。

私が大学に入学する頃、コロナ禍になり母のバンコクでの出
稼ぎの仕事はなくなり、家に帰ってきて日雇いの仕事を始めま

るのは祖父で、食事の準備
はいつも祖母がしてくれま
した。休みになれば、祖父
母の農作業を手伝いまし
た。両親に就いては、母が
バンコクへ出稼ぎに行った
こと以外は何も知りません
でした。父について祖父母
に聞いてみましたが、答え
てはくれませんでした。
幸いにして私は中学3年
間、日本の支援者様からダ
ルニー奨学金をいただくこ
とができました。そのおかげ
で勉強に励むことができ
、家計の心配も減りました。
いただいた奨学金は、
教材やレポートの印刷費、

したが、日当はわずか300
バーツ(約1,000円)でし
た。母はそのような中で6
年生になる私の弟の面倒
をみながら、年老いた祖父
母を日々支えています。私
は大学に進学したかった
のですが、祖父母は体が
弱く、私の大学の費用をま
かなうことはできません。
そこで、国の奨学金制度を
利用して、今日まで勉強
を続けてきました。また、週
末と学期末の休みにはア
ルバイトをして、学費の足
しにしています。

私の夢は、学士号を取得
し教師になることで、それ
までは政府の学生ローン
とアルバイトの収入で学費をまかなおうと考えています。就職
後はお金を貯めて、将来は校長先生になるために修士課程を
修了するまで勉強したいと思っています。

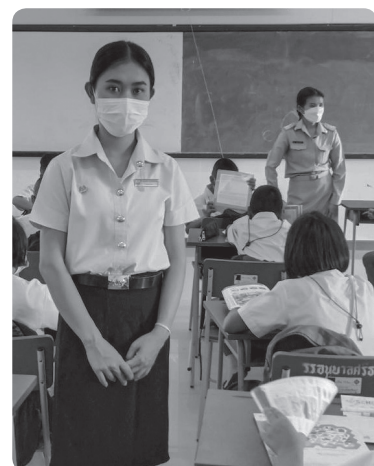
もし、私を支援してくれた支援者様にお会いできたら、「私のよ
うな恵まれない生徒のために奨学金を提供してくれてありが
とうございます」とお伝えしたいです。奨学金は、勉強するた



母親と農作業

有難く心から感謝いたします。次の世代の子どもたちがより良
い教育を受けられるよう、ダルニー奨学金制度がいつまでも
続くことを願っています。

また、次の世代の生徒たちに伝えたいのは、何もなかった私た
ちにEDFはより良い生活と未来を手に入れるために、支援の
手を差し伸べてくれたということです。そして、もし支援を受け
ることができたなら、その支援への感謝の気持ちをいつまでも
忘れずに、将来、自分たちと同じような貧しい子どもたちのた
めに、あなた方自身が次の世代への支援をするように伝えたい
です。「目的地に到着した時には、どこから来たかを忘れて
はならない」と。



**教師になるために小中学校で
教育実習をするピャポーンさん**

の十分な資金が
ない私のような
生徒をサポート
する大きな力に
なります。それは
まるで新しい人
生を歩むような
もので、私の夢
を実現するため
の扉を開いてく
れました。貧し
い子どもたちを
支援する大切さ
を感じて戴いた
ことが、本当に

ご支援者の皆様

コロナ禍になってから2年以上が経過し、世界中、またタイにおいても大きな変化がありました。教育面で顕著なのは「オンライン授業」です。学校、先生、生徒・児童、そして保護者は対応を迫られ、ご存知の通り多くの問題に直面しました。保護者が子どもを指導する準備ができない、機材の準備ができないという問題もありましたが、特に携帯電話等の機材を持っていない、もしくは家庭に1台しかないが子どもが複数人いるといった問題もありました。そのため授業の欠席や、近所の友だちと一緒にの学習を余儀なくされました。子どもたちには、学習が友だちより遅れるというストレスや心配事が増加しました。あらゆる面で準備万端ではないために「機会に恵まれない子どもたち」が教育システムから脱落するリスクが以前より高まっています。

これまでに一部の方々から、「オンライン授業は通学が不要で、制服等は要らないし、それでも奨学金が必要なのか」といったご質問が寄せられました。

しかしながら、実態は逆に、オンライン授業では通常教育費に上乗せして、携帯電話・タブレット等のオンライン授業用の機材、インターネット代や電気代等の金銭的負担が保護者に上乗せで課せられます。学校では給食が無料で提供されていましたが、子どもが在宅学習すると、貧しい家庭では食費増も重荷になります。だからこそ奨学金は家庭の負担を軽減させる大きな助けとなります。また、現在のタイでは物価が継続的に上昇しています。低所得者層の所得は低いまま、インフレによりお金の価値は下がりました。

2022年度の奨学金募集は、選考を通過した子どもが奨学金すべての種類で10,088名、これに対し、2022年3月24日時点で4,937名分の奨学金が集まりました（中学生の支援4,436名分、高校生・高等専門学校生の支援268名分、障がい児の支援126名分、タイ深南部孤児の支援93名分、大学生の支援14名分）。この為、奨学金を心待ちにしている子どもたち全員が明るい未来を持つ夢を叶えるためには、2022年度はさらに5,151名分の奨学金を必要としています。

今年度奨学金のご寄付は2022年6月30日まで受付を延長させていただいております。子どもたちへのご支援は、同封の申込書やウェブサイトからのご自身のご寄付と共に、ご友人や身近な方々に当財団をご紹介いただき「優しさと機会の架け橋」となって戴く方法もございますので、多くの方々にご協力をお願いできればと存じます。皆さまのご支援に心より御礼申し上げます。



EDF 財団 代表取締役

サンペット・ニンラット

SNSのお知らせ

支援者・協力者の皆様とのより速く情報のご提供のために、EDFが下記のようなソーシャルメディアを活用させていただいております。どうぞフォローをお願い申し上げます。



Facebook
: EDF Thailand



Instagram
: edfthai.jp



Twitter
: @EDFFoundation



LINE
: @edfthai

